

4月出荷に合わせたハウス被覆を行いましょう。

毎年4月のアスパラガスは、中野市への市場出荷要請が強く、高価格での販売が期待されます。今年もハウス作型では土壌の乾燥が懸念されます。土壌の乾燥は収量・品質低下につながります。

収量アップに向けて

①春肥の施用

- ・被覆直後の土壌水分がある状態の時に「野菜一番」を10a当り40kg施用。（吸収根の働き向上）

※土壌分析をされた方は、土壌処方せんに基づき施用して下さい。

②かん水の実施

- ・かん水は休眠覚醒及び吸収根の働きを活発にし、収量増大に効果があります。
※春先のかん水は「土を冷やさない」事が重要です。「午前中」、「回数多く」がポイントとなります。
※地下水位や水はけの程度に応じて、積極的にかん水をしましょう。
- ・水に「ハイプログリーン（1,000倍）」や「アミノメリット特青（500倍）」を溶かし、液肥をかん水すると効果的。

③雑草防止対策

- ・越冬雑草の多い場合は、草かきで削り取るかまたはロータリーで貯蔵根を切らない程度（深さ5cm）に軽くかける。
- ・除草剤使用例 ***使用時期の厳守：ロロックス、ゴーゴーサン乳剤、及び細粒剤Fは萌芽前にしか使用できません。**

条 件	10a 当り 除草剤 使用量
雑草がない場合	ロロックス 150g または ゴーゴーサン乳剤 30 300ml または ゴーゴーサン細粒剤 F4~6 kg
雑草が生えている場合	ロロックス 150g または ゴーゴーサン乳剤 30 300ml + プリグロックスL 600~1000ml
注 意	1. 10a当り水100ℓに溶く。 2. 温暖な日に行う。 3. 水が溜まっていたり、極度に土壌水分が多い場合や反対に土が乾いている時は効果が劣ることがある。

保温管理

- ・萌芽まではハウス内を密閉し保温に努める。
- ・萌芽後は日中25℃を目安に換気する。

気温	アスパラの状態
-1℃以下	凍霜害が発生。
1℃~12℃	伸びが悪くなる。
25℃~35℃	伸びは良くなるが、穂先が開きやすくなる。
35℃以上	45℃以上に長時間遭遇でヤケなど高温障害の発生。

※ハウス内の気温変化がわかる最高最低温度計をハウス内に設置しておく判断基準となるので便利です。

次項は土壌病害「疫病」の対策となります

疫病

- ・糸状菌の1つで卵菌類というものに分類される土壌伝染性病害。
- ・地中の芽や根から感染し、発病すると根が侵され腐敗し枯れてしまう病気。
- ・水はけの悪い圃場では被害が広がりやすく、翌年急に萌芽しなくなる特徴的な症状があります。

地上部の症状



根の症状



疫病対策

- ① **水はけを良くする（重要！）**
疫病は土壌が過湿状態になった時、水の中を泳いで移動し根や芽から感染します。
水はけを良くしておくと、胞子が十分に移動できず感染リスクを減らすことができます。
「排水対策」と「高畝」の組み合わせが効果的。（暗渠、明渠、カットドレーン、盛り土、高畝）
- ② **草勢の維持**
疫病は茎枯病のように、感染しても急激に腐敗、枯死する病気ではありません。
3～4年生以上の株は、立茎後に草勢を維持することで対処可能。（追肥の実施、亜リン酸の活用）
- ③ **殺菌剤「ユニフォーム粒剤」の活用**
感染リスクの高い圃場、及び疫病に感染した場合耐えられない1～3年生株の圃場において殺菌剤を使い感染を防ぐ。

ユニフォーム粒剤の使い方

防除時期

- ・既存圃場：「春の萌芽直後」
- ・新植・改植圃場：「苗の定植後」

使用量

- ・10a 当り 12kg（4袋）

使用方法

- ①実施面積で必要量を算出して用意する。
- ②畝の長さで必要量を計算し数量を決める（又は小分けにする）。
※畝1m当り約22gとなります。（畝幅175cmの場合）
- ③洗面器などの容器を用意し、圃場の土（乾き気味が良い）を増量剤として容器に入れ細かくする。
※薬剤だけでもまけるが、粒が細かく慣れないと播きすぎてしまい後半足りなくなりやすい。
- ④土が入っている容器に薬剤を入れて均一に混ぜるようになる。
- ⑤株を中心に畝面にかけていく。

